



ZENBUTSU

# 全仏



仏暦2555年3月  
[2012年]



山梨県南アルプス・北岳山頂のお地藏さま — 撮影 仏像ガール®

目次	加盟団体をゆく 第47回 日韓仏教交流協議会	2
	第4回 東日本大震災支援検討会議	3
	東日本大震災 一周忌追悼法要のお願い	4
	加盟団体顧問弁護士連絡会	5
	人権問題連絡協議会	6
	NHK大河ドラマ「平清盛」の題字作家 金澤翔子さん書き下ろし『花まつり』ポスターのご案内	8

# 加盟団体をゆく

## 《第四十七回》日韓仏教交流協議会

今回は日韓仏教交流協議会をお訪ねし、西郊良光理事長にお話を伺いました。



西郊良光日韓仏教交流協議会理事長

―貴団体が継続的に、もしくは最近力を入れている活動に関してお聞かせ下さい

日韓仏教交流協議会は一九七二年日本仏教徒の総意を集め、韓国から日本に仏教が伝わった事に対する感謝の意を示す「仏教伝来謝恩碑」を建立しよう、という事業がきっかけで創設された団体です。

現在二百五十名ほどの会員が入会しており、宗派を超えた会員・役員が集まっています。

一九七二年五月に韓国の扶余ふよに謝恩碑を建立、除幕してから韓国仏教徒の方々との交流が始まりました。謝恩碑建立から五年後の一九七七年に両国で交流協議会が設立されました。(日本側は日韓仏教交流協議会、韓国側は韓日仏教文化交流協議会を設立)

同年十月、ソウルの半島ユースホテルで日韓・韓日仏教交流協議会の合同発会式が行われ、第一回日韓・韓日仏教交流大会が行われました。

以後、一部の期間を除いては日本と韓国にて毎年交互に大会が開催され、今日までに三十二回の大会が開催されており、大会では世界平和祈願合同法要、学術大会、識者による共通テーマの基調講演が必ず行われ、共同宣言が発

表されています。今後も毎年継続して開催を予定しています。

日本と韓国の交流を行う際に、避けて通れないのが第二次世界大戦に関わる問題です。日韓仏教交流協議会の目的は日韓両国の文化交流と仏教興隆であり、政治的な意図や目的は一切ありません。しかし、第二次世界大戦に関わる問題はいまだに両国間に残っており、国家間のやりとりでは解決が難しい問題もあります。そうした問題に対して、少しずつでも解決に向けて歩んでゆかなくては両国の本当の意味での交流はできません。

国家間で正式に行う事は困難でも、仏教徒の間では日本は過去の行いに関してしっかりと謝罪をし、過去受けた痛みを癒すよう努力を行う。韓国側はそれを受けてよりいっそう日本との交流に力を尽くす、そうした健全な関係を構築すべく日々活動を進めています。

二〇〇八年一月に目黒・祐天寺において日本・韓国両国合同による「韓国出身戦没者還送遺骨追悼式」を厳修しました。祐天寺に安置されている一、一三五体のうち、遺族の判明した一〇一体を祖国の

地に返還しました。

二〇〇九年五月には、合同事業として第三十回韓日・日韓仏教交流大会を記念して、「人類和合共生祈願碑」を韓国驪州神勒寺に建立しました。こうした記念碑は今日まで一切ありませんでした。

今後も日韓交流を進めるべく、独自の支援を含めた様々な活動を行いたいと思います。

―東日本大震災への支援について

韓国仏教宗団協議会・韓日仏教文化交流協議会から東日本大震災の支援に役立ててほしい、との事で集められた募金一千万円を日韓仏教交流協議会に寄託して頂きました。協議の結果、全日本仏教会の救援基金に寄託させて頂きました。

また、二〇一一年五月二十三日には鎌倉光明寺において東日本大震災物故者追悼合同慰霊法要を厳修し、韓国側からも多数の僧侶にご参加を頂きました。

本年も三月九日午後二時より鎌倉光明寺において合同法要を厳修させて頂きます。既に韓国から僧

侶一〇〇名、婦人会三〇名以上の参列が予定されています。

今回の震災に対しては韓国側から非常に多くの支援を頂き、今後も継続して支援したいとの意向を頂いております。感謝すると共に、もし韓国側で災害が発生した折には日本から素早く援助を行う事も忘れてはならないと思います。

### ―現代社会に対する思いをお聞かせ下さい―

自死の問題、教育等の社会問題に対してはまず専門家等の識者を呼び、研修を重ねていく事が重要と感じています。まずこちらが社会の問題に対して勉強しなくてはなりません。

各宗派や寺院で自死問題に非常に積極的に取り組み活動している方もおられますが、残念ながらそれらはほんの一握りです。ほとんどの宗派や寺院は対応できる体制が整っていないのが現状です。僧侶もきれいな事を述べるだけではなく、社会問題と向き合うための意識改革が重要と思います。



「人類和合共生祈願碑」を韓国驪州神勒寺に建立

### ―仏教界に対する思いをお聞かせ下さい―

仏教界全体が、社会貢献活動と国際交流の分野に対してもっと力を入れていくべきだ、と感じています。

海外布教を行っている宗派等もありますが、キリスト教、イスラム教のような他宗教と交流がある宗派や団体となると非常に限られてきます。全日本仏教会でそうした啓発がもっと行えると、仏教界全体にとってより良い効果が生まれると思います。

## 第四回東日本大震災支援検討会議開催

第四回東日本大震災支援検討会議を二月十五日午後二時四十分より全日本仏教会会議室にて、全委員出席のもと開催した。

会議は、被災寺院を対象として行なった第二次支援活動のスライド上映と報告、第三次支援活動についての検討の順に進行した。今回の検討委員会で確認された事項は、以下の通り。

一、避難所となった寺院への第一次支援は、今後も継続する。期限設定はしない。

二、一月末日で締め切った第二次支援について、三月末日まで期間を延長して行う。なお期間延長の告知は、本会ホームページに掲載して行う。(六頁参照)

三、救援基金の基本金は三〇〇〇万円とする。

四、第三次支援の予算は、経費を含め四〇〇〇万円とする。

五、第三次支援は長期的視点に立ち、現在も被災地で支援活動

を行なっている加盟団体傘下の支援活動団体に一〇万円の拠出を行ない、支援先からはデータで写真等の報告をいただく。なお募集期間は四月上旬から六月末日までで、募集件数は三〇〇件、募集案内は①加盟団体②青年会③第一次支援を行なった一九六団体に送る。

六、今まで行ってきた支援活動についての中間報告書を作成し、加盟団体をはじめ義援金を寄託していただいた団体・個人及び支援した寺院・団体、賛助会員、関係団体などを含め、およそ一二〇〇ヶ所に送付する。なお義援金を寄託していただいた団体・個人には感謝状を添えて送付する。報告書作成・送付のための諸経費は救援基金より支出する。

その他の事項として長谷川委員より、各宗派の顧問弁護士による宗教法人の立場からのアンケートを行い、今後予想される国との折衝等の基礎資料を作ってはとの提案があった。

全国ご寺院の皆さまへ

東日本大震災 一周忌追悼法要のお願い

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分に発生した宮城県東方沖を震源とした地震とそれに続く大津波により、太平洋沿岸地域を中心に、平成二十四年一月三十一日現在、死者一五、八四五人、行方不明者三、三四〇人という大災害となりました。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の飛散は、広範囲の地域を汚染し、安心して暮らせるためには、まだ長い年月を要すると思われまます。

さて、厳しい寒さの中、東日本大震災発生から、まもなく一年を迎える時節となります。来る三月十一日、お亡くなりになられた多くの方々に対し、被災地のご寺院はもとより各ご宗派のご本山、全国のご寺院におきまして、一周忌の追悼法要と、地震発生時刻の午後二時四十六分に、梵鐘を撞いていただきたくお願いを申しあげます。被災された皆さまにおきましては、さぞかし大変な、苦悩の日々を過ごされておられることと存じます。この法要が、ご遺族はもとより、深い悲しみの中にある全ての方の心に寄り添い、これから共に歩むべき道を照らすことを願っております。

震災の復興はようやく緒に就いたところでありまます。私たちは協働し、長い支援を志してまいります。どうぞ、皆さまの温かいお心とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成二十四年二月一日

財団法人 全日本仏教会

会長 河野 太通

第四十四回大津市仏教会成道会仏教徒大会を開催

大津市仏教会では、去る十二月七日大津市ピアザ淡海において、第四十四回大津市仏教会成道会仏教徒大会を開催した。

仏教徒約三〇〇名が参加。奉賛式典では東日本大震災や台風十二号で亡くなった被災者への黙祷が捧げられ、釈尊の人間平等の教え、絆の大切さについて共に考えた。

また近江渡来人倶楽部代表の河本行雄氏が「二十一世紀・多文化共生社会の道筋を」と題して記念講演を行った。



式典にて「奉賛のことば」を読み上げる前阪良憲大津市仏教会会長

## 第二十九期 平成二十三年度加盟団体顧問弁護士連絡会

### テーマ：宗教法人を考える②

（被包括法人の合併について）

二月七日、浄土宗西山禅林寺派宗務所（京都永観堂）において標記連絡会を開催した。開会前には希望者に対して永観堂山内の特別拝観も実施された。

本連絡会は、包括法人の課題の一つである不活動法人対策を中心に話し合い、各加盟団体の顧問弁護士と担当役員を交え、各加盟団体が持つ情報を交換し合うことを目的として企画され、本会事務総局員を含め五十八名が参加した。開会に先立ち会場をご提供頂いた久我儼昭浄土宗西山禅林寺派宗務総長より挨拶を賜り、午後二時より開会した。

講師の松井宗益臨済宗妙心寺派宗務総長は、問題提起として（株）日本テンブルヴァンがまとめた一般の方々の僧侶に対する苦情事例を出席者に報告し「僧侶の素行や葬儀に対する不満が社会には非常

に多い。このような事がきっかけとなり、宗内では住職と檀家が紛争になるケースが既に相次いでいる。」と現状を報告。同宗派ではこれらの対策として「妙心寺派相談室」を設立し、檀家・一般の方からの相談に対応。訴訟などに発展することを防ぐために現地へ赴き調停作業を行うこともある、と説明した。

また平成元年の時点で百十ヶ寺あった同宗派所属の無住寺院を十ヶ寺まで減らしたことや、寺院の活性化を目的とした寺院の移転や合併、解散等の取り組みを具体的に紹介し「こうした取り組みを怠ると不活動被包括法人を増やしてしまうことになる。不活動法人化した寺院は犯罪の温床にもなりやすく、決して放置してはならない。」と述べた。

その後、顧問弁護士と加盟団体役員に別れて分散会を行い、意見を集約し報告会を行った。報告会ではそれぞれ担当の書記

が内容を発表。加盟団体の側では各宗派が取り組んでいる不活動被包括法人対策が紹介されたものの、不活動寺院数の把握や対策はこれから取り組むと報告する団体も少なくなかった。包括法人側としては基本的に加盟寺院数を減らす方向では考えづらく、解散ではなく合併を多くの団体で推奨していると報告された。

顧問弁護士側の報告では、「在家から出家した僧侶は意欲も知識も伴っているが住職になることが難しい。背景として、その寺院の法類のみで住職の任命を推挙していることが挙げられる。こうした僧侶を無住寺院の住職として任命すればいいのではないか?」「単立化する寺院を増やさないと包括団体が考えなければならぬのは、宗派課金や師弟教育の面で単立化するメリットはデメリットを上回っている。包括法人は加盟寺院のメリットを再考するべき。」等、加盟団体の不活動法人対策とは相対し、不活動法人を増やさない為の対策について多くの意見が出さ

れた。

その後開かれた全体会では、不活動被包括法人数の把握のベースとなっている各寺院から所轄庁への提出が義務づけられている備え付け書類の提出率が低い事が問題に挙げられた。各宗派より呼びかけて、書類の提出を促す重要性が再認識された。

包括法人は社会的責任を果たす為、不活動被包括法人対策を積極的に行わなければ、社会は私たちに厳しい目を向けることになるだろうと総括し、連絡会は終了した。



講演する松井宗益臨済宗妙心寺派宗務総長

## 第二十九期 第三回 人権問題連絡協議会

二月八日、浄土宗西山禅林寺派宗務所（京都永観堂）にて「第二十九期第三回人権問題連絡協議会」が開催された。

はじめに「風評について考える」と題し、吉田泉民主党衆議院議員（東日本大震災復興対策本部福島現地対策本部長・財務大臣政務官）が講演を行い、原子力発電所の爆発事故後の被災地の状況と課題について語った。

講演では避難住民の大半が職を失っていること、原発事故の影響で家庭生活が分断された（年配者と若い世代）事例等の現況が報告された後、風評被害により畜産・米・果物と言った農業等の第一次産業だけに限らず、林業・水産加工業・観光等の広範囲に被害が及んでいることが指摘された。

また事故後住民の不安が増幅されている問題については、特に低レベルの放射線に対する不安に対し政府としても適切な対応ができていないことが述べられ、今後は

一刻もはやく除染のための仮置き場の設置を進めていく、と語った。続いて長谷川健一飯館村前田行政区長（酪農家）がDVD（映像）を使いながら講演を行い、集団避難に至るまでの政府の発表する放射線数値への不信や、酪農を営む故の苦悩・悩みの様子が映像とともに語られた。

結果として長谷川区長本人を含め、同業の酪農家は皆住み慣れた土地を離れ、廃業を余儀なくされ、酪農仲間が自らの命を絶つなど言葉では言いあらわせない悲しみに陥った体験が語られた。

現在の状況については、事故後除染等を含めた国の対応が進んでおらず、今も飯館村の住民は不安を抱えていること、このままでは「村を出る」方策も視野に入れなければならぬ事が語られ、今後の国の対応はもとより、この原発事故を風化させてはならないと訴えた。

休憩をはさんで、両講師と加盟団体各担当者との間で意見交換がなされた。

風評被害の原因の一つに、行政側が計測環境（放射線等）を整え

て来なかつた責任が大きいとの意見が出され、放射線への政府の取り組みに対して批判が集中した。吉田対策本部長は、政府の広報を通じて情報を正確に伝えていきたいと語った。

加盟団体からは独自に現地に対策本部を設置して、復興に向け正しい情報を発信するための機構整備をしている、との報告も行われた。

その他、加盟団体からの要望として、義援金・支援金を集め、被災地の復興の一助となる様な支援活動を実施しているが、よりスムーズに活動できるように配慮してもらいたいとの要望が出された。



風評被害について語る長谷川健一飯館村前田行政区長

### 日本記者クラブにて記者会見開催

本会は二〇一一年十二月一日に出した宣言文「原子力発電によらない生き方を求めて」に関して、日本記者クラブにて二月二十日午後二時より河野太通会長、戸松義晴事務総長が記者会見を行いました。会見の動画は日本記者クラブホームページにてご覧頂けます。詳しくは本会ホームページをご参照下さい。

<http://www.jbfn.jp/>

### 被災寺院への支援金交付が延長

東日本大震災被災寺院への支援金の交付を二〇一二年三月三十一日まで延長いたしました。

支援金に関する詳細は本会ホームページをご覧ください。

<http://www.jbfn.jp/>

### 映画「イエロー・ケークリー

ンなエネルギーという嘘」各地でロードショー開始

原子力発電の燃料であるウラン鉱石は、採掘の際に作業員の被ばくを起し、大量の放射性土砂、汚泥を残してしまします。

この問題に関する様々な声と映像を綴ったドキュメンタリー映画「イエロー・ケークリー」が各地で上映中です。詳細は映画ホームページをご参照下さい。

<http://pandorafilms.wordpress.com/>

# 事務総局録事

## 十二月(十六日～三十一日)

十六日▼野村證券来局

▼自由民主党団体交流委員長井

上信治氏来局

十九日▼淑徳大学藤森氏来局

▼日本郵便来局

二十一日▼(株)安震来局

▼さよなら原発一千万人実行

委員会来局

二十二日▼無料法律相談

▼東映来局

二十六日▼自由民主党鈴木政二氏来局

▼社会民主党福島みずほ氏来

局

二十七日▼事務総局ご用納め

## 一月(一日～三十一日)

十日▼事務総局ご用始め

▼日蓮宗賀詞交歓会出席(日蓮宗

宗務院)

十一日▼東映来局

十二日▼公益法人協会新年懇親会出席

(銀行倶楽部)

▼富士通マーケティング東氏来

局

▼損保ジャパン来局

十三日▼厚生労働省人道調査室亀島室

長遠藤氏来局

十五日▼増上寺新年互礼会出席

十六日▼民主党二〇一二年度定期大会

出席(ホテルニューオータニ  
鶴の間)

▼日本宗教連盟幹事会・理事会・

懇談会出席(増上寺会館)

▼新日本法規出版大村氏来局

十七日▼局内会議

▼社団法人日本仏教保育協会新

年懇親会出席(ザ・プリンス

パークタワー東京コンベンシ

ョンホールFG)

▼劇団希望舞台来局

▼『寺門興隆』誌取材

▼ミティラー美術館長谷川氏来

局

十八日▼藤プロダクション代表藤森氏

来局

十九日▼真宗大谷派互礼会出席

▼念法真教桶屋教務総長・一宮

総務部長他来局

二十日▼(財)埼玉県佛教会平成二十四

年新年懇親会出席(浦和ロイ

ヤルパインズホテル三階プラ

チナルーム)

二十二日▼第七十九回自由民主党大会

出席(グラランドプリンスホ

テル新高輪 国際館パミ

ル三階「北辰の間」)

二十四日▼浄光会出席(増上寺)

▼浄土宗中村総務局長・小林

理事来局

▼大東観光来局

二十五日▼第七回国際交流審議会

二十六日▼仏教NGOネットワーク

(BNN)連続セミナー参加

二十七日▼総務財政審議会

▼WC RP日本委員会新春学

習会・新春の集い出席(立

正佼成会 法輪閣)

三十日▼第七回葬祭コーディネーター

コンテストに審査員として参

加(ホテルアジュール竹芝)

三十一日▼局内会議

▼インド大使館クリシユナ参

事官主催夕食会出席

## 二月(一日～十五日)

一日▼仏教NGOネットワーク(BN

N)企画委員会出席(慈母会館)

二日▼平成二十三年度中小企業活路開

拓調査・実現化事業「成果普及

講習会」出席(総評会館)

七日▼加盟団体顧問弁護士連絡会(永

観堂)

八日▼人権問題連絡協議会(永観堂)

九日▼自由民主党各種団体懇話会出席

(半蔵門)

▼真言宗智山派宮坂宥勝下追悼

法要参列(京都・智積院)

十日▼社団法人全日本仏教婦人連盟修

正会出席(グラランドプリンスホ

テル高輪)

▼比叡山宗教サミット二十五周年

世界平和の祈りの集い第二回実

行委員会出席(新都ホテル)

十五日▼局内会議

▼第四回東日本大震災支援検討

会議

### 表紙写真紹介

「山梨県南アルプス・

北岳山頂のお地藏さま」

日本で一番目に高い山は、富士山。では、日本で二番目に高い山はなんでしょう?すぐに答えられた方は、きっと登山がお好きな方だと思えます。

答えは、北岳。山梨県にそびえる南アルプスにあります。標高三、一九三メートルの山頂には、お地藏さまがいらっしゃいます。多くのお山と同じように、ここ南アルプスにも山岳信仰がありました。昔はこの山頂には、小さな祠があつて、その中に小さな大日如来さまがいらっしゃったようですが、いつからかその大日如来さまは盗まれてしまつて、祠もなくなつてしまいました。

このお地藏さまがいつからいらつしゃるのかはわかつていないようですが、大日如来さまがご不在の間、しっかりと山頂を守つてくださっているようにみえました。今回で仏像ガールが表紙の写真を担当させていただくのは最後となります。毎月写真を選ぶ中で、改めて日本が持つ四季、色、信仰に心を打たれ、こんな国に生まれ、仏教に出会えて、本当によかったと思えました。ありがとうございます!

仏像ガール®

## NHK大河ドラマ「平清盛」の題字作家、金澤翔子さん 書き下ろし『花まつり』ポスターのご案内

本年はNHKにて放映中の大河ドラマ「平清盛」の題字作家、金澤翔子さんが書き下ろした「花まつり」ポスターを頒布致します。数が限られておりますのでお早めにお求め下さい。

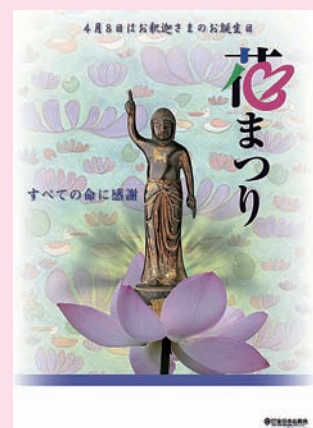
### 金澤翔子書新ポスター（限定3000枚）



従来ポスター（在庫なくなり次第頒布終了）

(A) 赤ちゃんとお仏像

(B) 仏像(残りわずか)



### ご注文方法

- ◇価格 1枚 50円（10枚以上より受付 梱包料800円、送料〔関東1,250円、近畿・東北1,350円、四国・中国1,500円、九州・北海道1,650円〕 9枚以下は応相談）
- ◇お申し込み 本会ホームページより申込み用紙を印刷し、FAXにてお申し込み下さい。（申込み用紙の印刷ができない場合はお問い合わせ下さい）
- ◇お支払い方法 後日、請求書と払い込み用紙をお送り致します。

金澤翔子さんについてはホームページをご参照ください。http://www.kshouko.com/



### 花まつり「絵はがき」無料配布中

全日本仏教会では、『花まつり』を記念して、毎年、『花まつり』絵はがきを皆様に無料にて配布しております。画僧である牧者恵師にデザインをお願いしております。

親しい人・大切な方へ「ありがとう」を送りましょう。

申込みは、メールもしくはFAXにて承ります。

1枚より無料でお届けします。（50部以上ご希望の場合のみ、送料着払いの宅急便にて発送させていただきます）

#### ●ポスター、絵はがきのお申し込み・お問い合わせ先

財団法人 全日本仏教会 広報文化部

TEL 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260

メールアドレス kouho@jbf.ne.jp ホームページ http://www.jbf.ne.jp